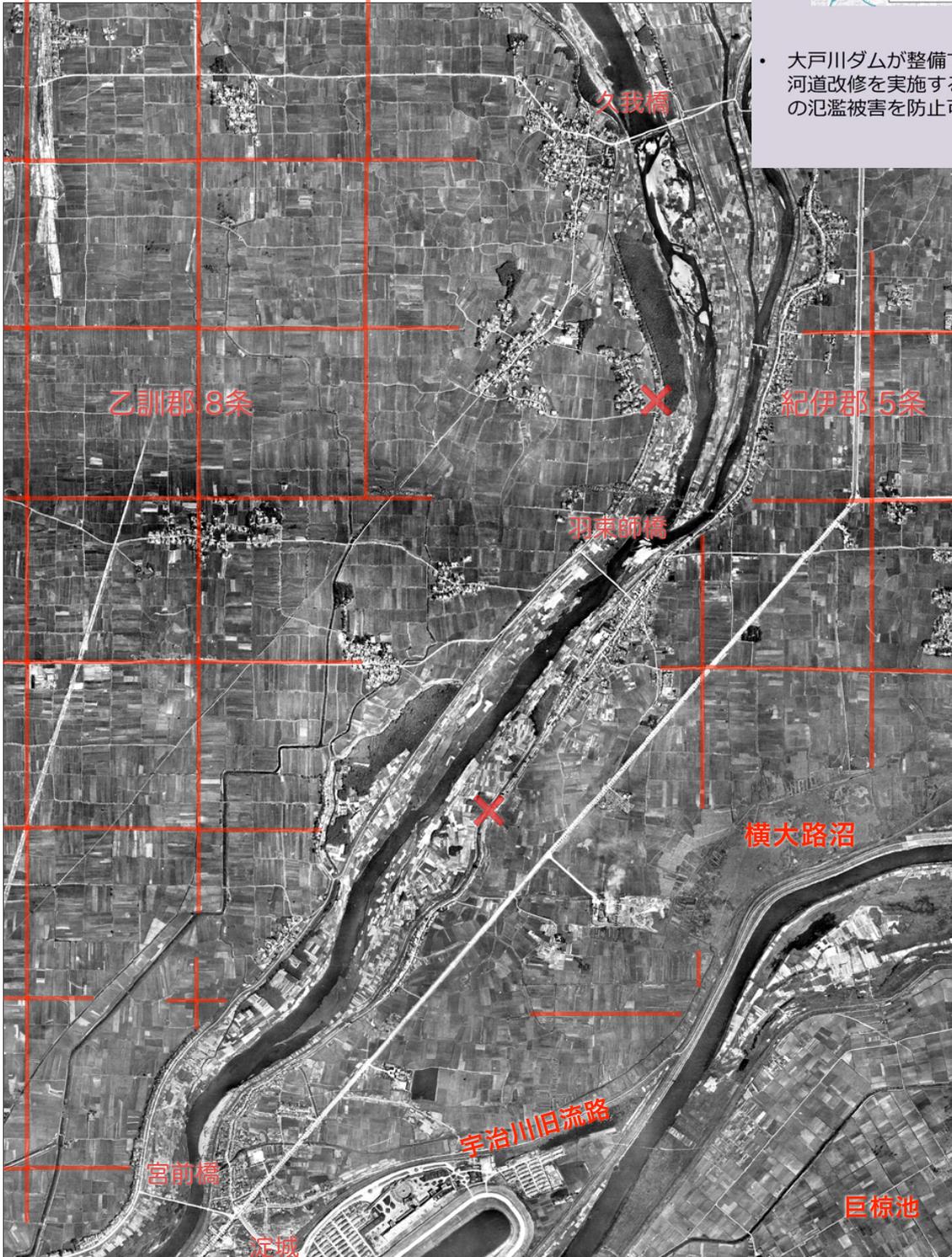


近畿地方整備局が約3兆円の被害があるとする桂川最下流域の浸水想定域は、どういふ土地か？

高度成長期以前の都市化が進行するまでに撮影された空中写真には、その土地の本来のありようが写し取られている。桂川に沿っては、氾濫の痕跡をうかがわせる乱れた地割や湿地帯などの水域が分布する。他方、そのまわりには整然とした条里地割がみられ、その姿はそこが歴史上安定的に存続してきた土地であることを物語っている。流域のうちのそのような優良な土地にすら、広範囲に被覆的な氾濫被害の予測がなされるようになるのであれば、逆にそれをもたらすような治水事業が不適格・不適切であったことを示唆するのではないか。

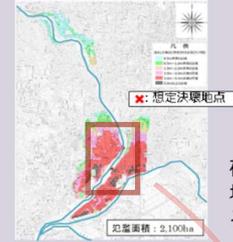
近代河川工学・治水工学の敗北（治水思想に根本欠陥）？

地理院地図 1946年7月24日撮影
GSI Maps



桂川

- H29 時点河道において、H25 洪水が発生した場合、約11.0km 区間で計画高水位を超過



破堤・氾濫した場合に想定される被害
約3兆円

- 大戸川ダムが整備できれば、さらなる河道改修を実施することができ、桂川の氾濫被害を防止可能

近畿地方整備局の資料の被害想定域を地理院地図の空中写真で確認してみる。

三川合流部における大規模河川改修 や 遊水機能の喪失を伴う水系改変事業 と 大規模水害の発生

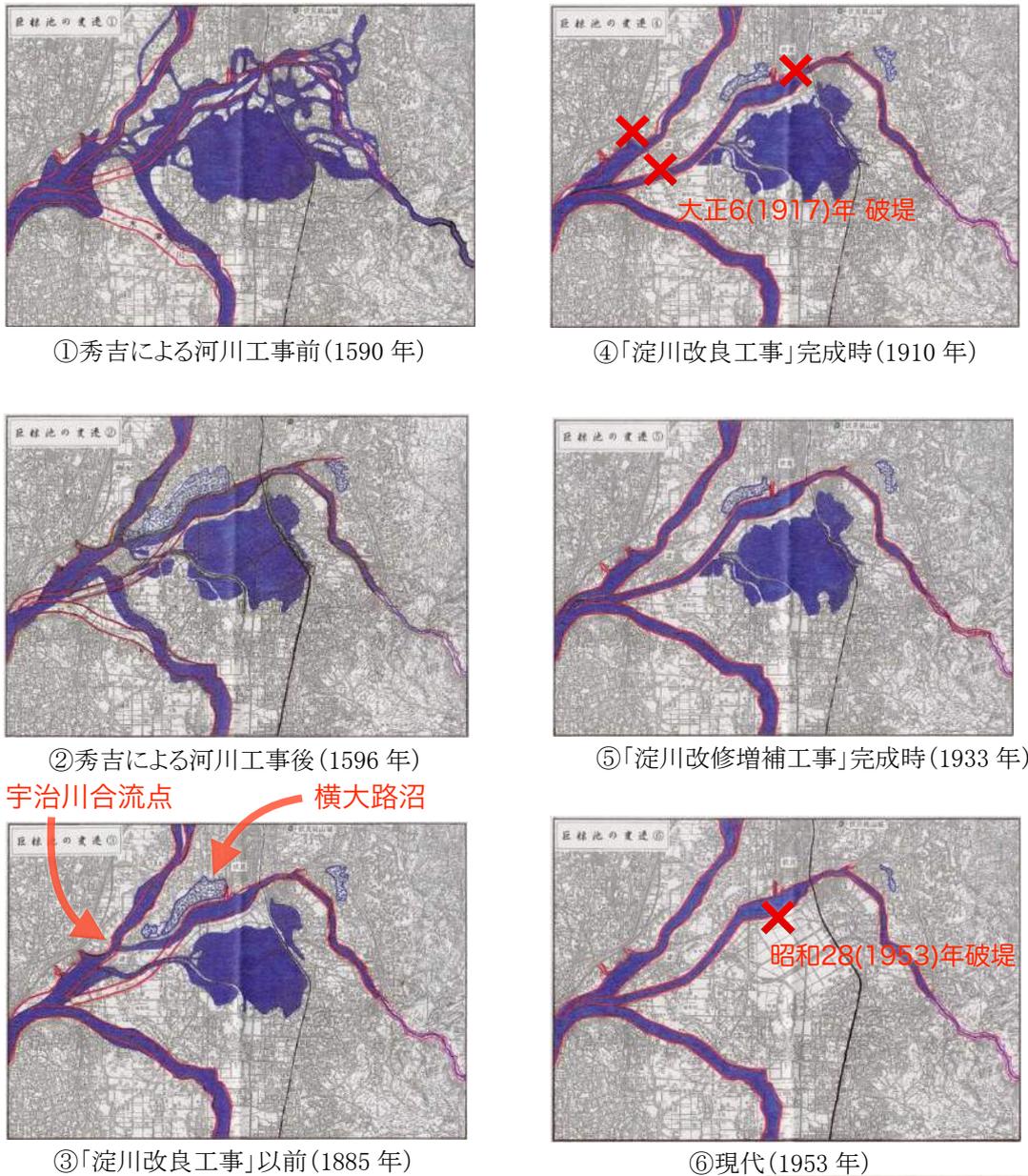


図 2.2-1 巨椋池周辺の変遷

巨大な河川改修や遊水機能の喪失を伴う水系改変事業により、新たなタイプの大規模な洪水被害がそのたびに発生している。
 水系改修の可否でなく、選ばれた事業そのものの適格性が問題

- 1910年 宇治川付替・巨椋池の分離 [淀川改良工事]
- 1917年 台風 宇治川右岸・桂川破堤
- 1933年 宇治川右岸築堤 [淀川改修増補工事]
- 1941年 巨椋池干拓
- 1953年 台風13号 宇治川左岸破堤
- 1960年 宇治川築堤・河床掘削 [淀川水系改修基本計画]
- それ以後も、宇治川の改修
- 2013年 台風18号 桂川下流部越水

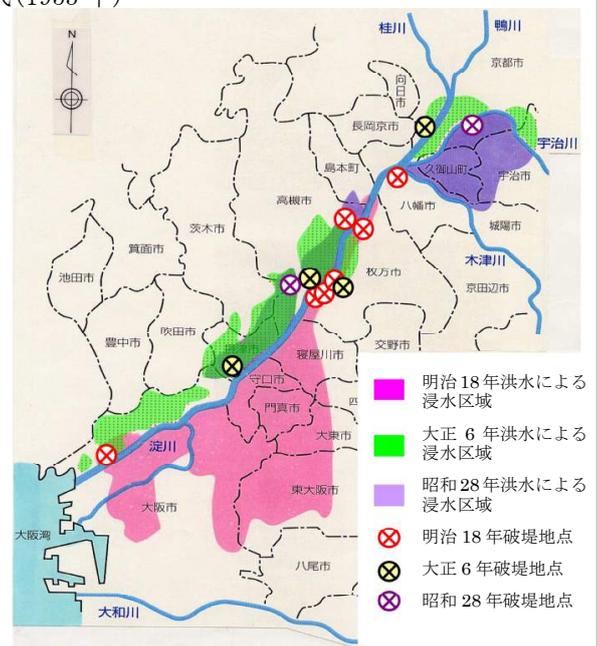


図 2.2-3 淀川水系の主要な洪水における氾濫実績図